

新年あけましておめでとうございます。

本校創立 130 周年となる今年は巳年です。へビは脱皮を繰り返して成長することや、その生命力の強さから、「再生」や「復活」「長寿」を象徴し、縁起がいい生き物とされることもあります。

また、「巳」を「実」という字と関連させて「実を結ぶ年」とも言われるそうです。これまでの皆さんの取り組みが実を結び、置農がさらに発展していける年にしていけたらよいと思っていますところです。

さて、令和 7 年のスタートにあたって「夢七訓」について話をしたいと思います。

昨年 7 月に新しい一万円札・五千円札・千円札の発行が開始されました。お年玉を新しいお札でもらった人も多いのではないかと思います。皆さんは新札に描かれている肖像画のモデルとなった 3 名を知っていますか。

この 3 名には新たな産業の育成、女性活躍、科学の発展といった面から日本の近代化に大きく貢献した人物が選ばれたそうです。

一万円札が渋沢栄一、五千円札が津田梅子（津田塾大学を創立した教育家）、千円札が北里柴三郎（世界で初めて破傷風菌の純粹培養に成功した細菌学者）です。

この中で渋沢栄一は「近代日本経済の父」と称される実業家で、徳川慶喜の弟・昭武とともにヨーロッパを訪問し、先進的な経済の実情を見聞、帰国後、大蔵省で新たな国づくりに関わった人です。その後、実業家となり、500 以上もの企業の設立や人材育成に関わりました。

令和 3 年の NHK 大河ドラマ『青天を衝け』では、渋沢栄一の幕末から昭和初期までの生涯が描かれました。

渋沢栄一にはたくさんの名言があることで知られています。その一つが「夢七訓」です。（栄一の座右の銘、吉田松陰の言葉を基にしているという説もある）。

「夢七訓」では、「夢」をもつことがいかに大切であるかが語られています。

夢なき者は理想なし。

理想なき者は信念なし。

信念なき者は計画なし。

計画なき者は実行なし。

実行なき者は成果なし。

成果なき者は幸福なし。

ゆえに幸福を求むる者は夢なかるべからず。

（渋沢栄一「夢七訓」より）

少し難しいと思いますが、簡単にいうと、「幸せ」な人生は、「夢」をもつところか始まる。だから「夢」をもつことが大切である。とい

うことです。

令和7年のスタートにあたり、皆さんには「夢」をもって、将来の自分をしっかり考え、その実現のために何に取り組んでいかなければならないのかを考えて欲しいと思います。理想を持ち、信念を持って計画を実行し、努力を続けていけばおのずと成果はついてくる、それが人生の幸せにつながるということです。

「夢を持つことは大事なこと」ぜひ皆さんにも大きな夢を持って令和7年をスタートさせて欲しいと思います。

さて、3学期は令和6年度の総決算となる学期です。特に3年生は3月に卒業式を控えています。卒業までの高校生活を充実したものにすることはもちろんですが、卒業後の進路に向けた準備もしっかりお願いします。置農で学んだことに誇りをもって、進路先でその知識や技術等を十分に発揮してほしいと思います。

2年生は4月からいよいよ最高学年となります。2年生の3学期は3年0学期と言われます。3年生から校内の様々な活動を受け継ぎ、最高学年に向けて、しっかり準備をお願いします。

1年生は4月から2年生、新たに新入生が入学します。新1年生の手本となり、後輩を引っ張っていけるよう、今から心構え等の準備を行ってください。

年末年始、青森県では例年の3倍以上の積雪があったそうです。山形も寒さや積雪はこれからが本番です。短い3学期ではありますが、体調管理に気を配り、規則正しい生活を心がけてください。3学期が来年度に向けた飛躍の学期となることを期待して、3学期始業式の式辞とします。